

参考となる成果整理表

ヒラメ親魚のアクアレオウイルス保有状況と防除対策

福島県水産資源研究所 種苗研究部

1 部門名

水産業－栽培漁業－魚病

2 担当者名

山野辺 貴寛

3 要旨

ヒラメアクアレオウイルス感染症は稚魚期に発生すると死亡率がほぼ100%に達し、飼育群の処分以外の対策がないため、全国のヒラメ種苗生産機関で大きな問題となっている。同感染症は、水平伝播のほかに親魚からの垂直感染が知られており、その防除は重要な管理点である。また、天然ヒラメは10～30%のウイルス保有率を示すことが知られるため、親魚の導入は慎重に行うことが重要である。今般、相双海域で漁獲された親魚候補のウイルス保有状況を調査し、結果を基に稚魚飼育現場におけるアクアレオウイルス垂直感染防除体制を構築した。

- (1) 2020～2021年に相双沿岸で漁獲され、導入を予定しているヒラメ親魚候補56個体（雌雄不明）について、腸管ぬぐい液を検体としてRNAを抽出し、RT-PCR法によってウイルス保有状況を調査した。
- (2) 親魚候補のうち、6個体についてウイルスを保有しているものと判断された（図1、2）。
- (3) 今回保有が確認された個体は親魚候補から除外した。残りの親魚を導入して種苗生産を実施する際には、万全を期すために卵消毒を実施することとした。また、新たな親魚導入時は隔離を確実にした上でウイルス保有検査を行い、導入する親魚を選抜する体制を整備した。

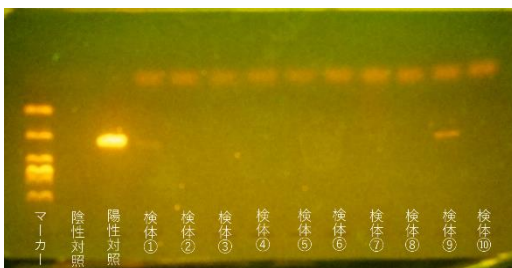


図1 RT-PCR増幅産物電気泳動結果（一例①）

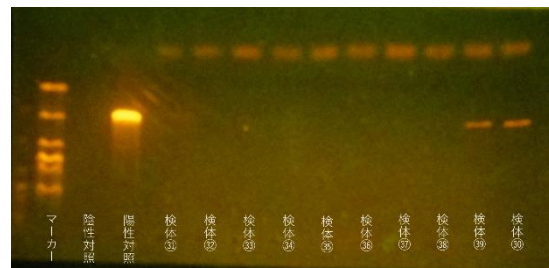


図2 RT-PCR増幅産物電気泳動結果（一例②）

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3年度～令和7年度
- (2) 研究課題名 栽培漁業対象種の放流技術に関する研究

5 主な参考文献・資料

- (1) 水産研究・教育機構, ヒラメのアクアレオウイルス感染症防除対策マニュアル Ver 1, 2020